

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年8月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890200074		
法人名	社会福祉法人 秀和会		
事業所名	グループホーム さくらんぼ	ユニット名	海の町
所在地	〒316-0002 茨城県日立市桜川町1-1-1		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0890200074&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年1月26日	評価確定日	平成24年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1階にクリニック、2階に病棟、4階に小規模特養があり、互いに連携をし入居者の生活を支援している。 月に1回はお花見やぶどう狩りなど四季折々の行事を取り入れ入居者の方々に季節感を感じてもらえるように取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>中心市街地に位置するビル内にある事業所であり、ビル全体に系列医療法人が運営する医療機関やサテライト型特別養護老人ホーム、通所リハビリテーションが入っている複合型施設となっている。 職員は医療と福祉が一体となった連携サービスの提供により、利用者が住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう利用者の支援にあたっている。 管理者は地域密着型サービスのあるべき姿を明確に捉え、職員とコミュニケーションを深めながら系統立った運営に努めており、利用者は明るく接する職員の支援を得て、ゆったりとした日常生活を送っている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念～「安心」の提供をめざす～とともにグループホームでも「今に寄り添い過ごす」など独自の理念をつくり、掲示などすることで共有化を図れるように意識して行っている。	「安心して住み慣れた地域でのなじみの関係や交流の中で」、「今までしてきた自らの暮らしを」などのキーワードを含む事業所独自の理念を掲げている。 理念を事務室に掲示するとともに、職員は胸章の裏に理念を記したカードを入れ、常に確認している。 職員は利用者が入居前の生活リズムを保ちながら、寛いで過ごせるように支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会に参加するなど、地域とのつながりを大切にしているが、日常的な近所付き合いは行っていない。地域の一員としてグループホームから働きかけを行っていききたい。	地域の敬老会への参加や散歩の際の挨拶を通して地域と交流しているが、利用者が地域の一員として日常的に地域と交流するまでには至っていない。	運営推進会議などで得られた情報を活かして地域活動に参加するとともに、近隣の保育園児や小学生、中学生との交流により、利用者が住み慣れた地域で生活ができる支援が望まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法は積み上げつつあるので、地域の方々へその経験を伝えられる場の確保を行っていききたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、ご家族や地域の方々の思いや市の考え方などを理解し、話し合いの中で出たことをできることからすぐに行うようにしている。	市職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、外部評価結果やサービス状況などを報告している。 管理者は委員から出た、「災害時の介護においては、懐中電灯よりヘッドライトの方が便利である」、「備品を充実したほうが良い」、「職員の顔写真があると便利」との意見を受けて対応するなど、改善を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員よりアドバイスを受けたり、疑問点など相談するようにしている。	法人事務長や管理者は、運営推進会議や市事業者懇談会などを通して処遇困難な利用者への対応について市担当者とは相談している。 市担当者とは電話や面会などの機会を通して密に連絡を取るよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通じて身体拘束をすることが認知症の高齢者に与える影響を理解している。日中の施錠に関しては建物の構造上不特定多数の出入りもあり、課題となっている。	身体拘束防止マニュアルを作成するとともに、研修や現場教育を通して、全職員が身体拘束廃止についての理解を深めているが、玄関やエレベーター、階段扉にテンキースイッチを設置しており、利用者が玄関から自分の意思で外出できるような環境を整えるまでには至っていない。	利用者が外出した際に地域住民に見守ってもらうなど、地域の協力を得ながら、利用者が自分の意思で玄関から自由に外出ができる環境づくりに向けた取り組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通じ高齢者の虐待について職員一人一人が理解し、言葉かけなど小さな点から注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用中の方もいるので、社会福祉協議会の方からも学ぶ機会を設けて取り組んでいきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には入居者及びその家族が十分理解できるように説明し、理解・納得され契約を締結・解約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会など随時ご意見を聞くようにしている。また、来ホーム時に自由な意見を聞けるように玄関に意見箱を設置している。	利用者や家族等は運営推進会議や介護相談員来訪の機会を通して意見や要望を表している。 家族等が面会に来訪した際には居室で話を聴くなど、意見や要望を表し易い雰囲気づくりに努めているが、家族アンケートを実施したり家族会を開催するまでには至っていない。 「ユニット間で行事の回数に差がある」という家族等からの意見を踏まえて職員配置を変えるなど、運営に反映させている。	家族アンケートの実施や家族会開催など、利用者や家族等の更なる意見の反映に向けた取り組みを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個々の職員と面談し意見を聞くほか、より良い提案については積極的に取り入れるなど運営に反映させている。	毎月のユニット会議やリーダー会議のほか、代表者や管理者による年1回の職員面談を通して意見や提案を聞いている。 「まずは、現場に任せてやってみよう」という観点から、勤務体制や利用者の入浴時間帯変更に関する職員の意見を取り入れ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において就業規則や職員給与規程を整備しているほか、定期健康診断の実施など労働環境の充実に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量に応じ、OJTやOFF-JT等法人内外研修の受講機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他施設への訪問研修を実施するなどサービスの質の向上を図る取り組みに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に訪問調査を行い、アセスメントしその際に本人の生活状況や望む暮らしを聞きとるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望を聞き取り、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向や要望を聞きとり、必要な支援やアドバイスができるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や後片付け、洗濯たたみなど一人一人のできること、できないことを見極めてできることは本人に行ってもらい、できないことがあっても職員と共に行って暮らしを共有できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に随時家族に要望などを聞き、本人の望む生活の実現に向けて共に支え協力していけるように努めている。外出などいつでもできるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの友人宅への訪問の支援、行きつけの衣料品店への買い物やかかりつけ医への受診支援などを通じてこれまでの関係性を意識し支援している。	職員は入居時のアセスメントや家族等からの情報などにより、利用者の馴染みの人や場所を把握している。 職員は利用者が自宅の様子を見に行ったり、友人宅訪問や馴染みの衣料品店に行けるよう付き添っている。 職員は利用者が希望する馴染みの教会への礼拝や美容院の利用、墓参りなどを家族等に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりのこれまで生活してきた環境をアセスメントを通じて把握し、よりよい関係性が築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、他施設や病院にいる方の状態を随時把握し必要に応じて相談に応じたり、アドバイスをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、発言や表情から本人の望む生活を把握し記録などに残し検討することで望む生活の実現に向けて支援している。	思いや意向の把握が困難な利用者の場合を含めて、入居時のアセスメントのほかに日々の係わりの中で、利用者の話や表情から思いや意向を把握し、特記事項として朱書きで記録することにより全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族の協力も得て、生活歴や暮らしの情報として把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の様子や生活の様子などいつもと違うことがあれば記録にし、職員間で情報が共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から生活全体の意向を聞きケアプランを作成している。また、担当者会議を行うことでその時々の課題や対応の検討を行いケアプランに反映させている。	アセスメントなどで把握した利用者や家族等の思いや意向を基に、計画作成担当者と介護支援専門員が話し合って介護計画案を作成し、管理者や介護職員を交えた会議において、医療関係者の意見もふまえて介護計画を作成している。 3ヶ月毎のモニタリングや6ヶ月毎の評価に基づいて介護計画を見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合には、随時介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報をパソコンで一元的に管理し日々の生活の支援やケアプランの作成時の参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の1階にクリニック、2階に病棟、4階に特養と多機能化されている。入居者の必要に応じて連携している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の地域包括支援センターと随時相談やアドバイスを受け豊かな暮らしの実現に向けて連携している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を聞き必要な支援ができるように努めている。家族の同意を得てかかりつけ医を決定している。また、かかりつけ医以外の受診についても付き添いなどの支援を行っている。	全利用者が入居前から同一ビル内にある系列医療機関をかかりつけ医としており、職員はその医療機関と連携を図りながら受診を支援している。 家族等が付き添って専門医療機関を受診する場合は、バイタルサイン等を記録した書類で医師に利用者の状態を伝えるとともに、受診結果を記録して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化でも看護職に情報を伝え、早期受診につなげている。また、24時間の連絡体制もあり、入居者の体調急変時への対応につなげている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	二階に病棟があることもあり、入退院時また入院中の密接な連携、主治医からその後のフォローも受けられる環境になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前回も課題となっている。重度化した場合のマニュアルを作成し取り組みを進めている。早い段階からの本人・家族との話し合いを進めるようにしている。	看取りに関する指針やマニュアルを作成するとともに、重度化や看取り対応に向けて系列法人の医療機関や施設との連携を図り協力体制を構築している。 看取り介護開始時の同意書の書式を作成しているが、入居時に事業所の看取りへの対応方針に同意を得るまでには至っていない。	利用者や家族等をはじめとする関係者の意向がずれたまま、重度化や看取りの時期を迎えることのないよう利用者の同意も含め、できるだけ早期から話し合いの機会を設け、事業所としてできることとできないことなど方針の共有を図っていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今期は救急救命を行っていないが特養の看護師とも連携し実践力を身につけるように努めたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大きな震災を経験し防災の意識も高まった。防災訓練も施設全体で行っている。今後は地域との協力体制を築けるようにしていきたい。	年2回避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練や消防署立会い、近隣住民参加といった避難訓練を実施するまでには至っていない。 避難訓練で得られた課題を記録として残し、ユニット会議で対応について話し合っている。 災害に備えて、食糧や飲料水などを備蓄している。	消防署立会いの避難訓練や近隣住民参加の避難訓練は、前回の目標達成計画にも掲げられている。 目標達成計画に夜間想定訓練も追加して、着実に避難訓練を実施していくことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の過ごされてきた日々の中での生活感、価値観を知り、受けとめ理解し一人ひとり、それぞれの対応を行っている。	利用者の価値観や誇りを尊重し、利用者が同じ話を繰り返す場合にも、傾聴に努めている。 個人情報保護法やプライバシーに関する研修を年1回実施している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と入居者、入居者同士、家族との関わりで、本人の思い、希望が言え、それを自己決定し実現できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等常に本人の希望を聞き、それにそった支援ができるように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みや本人が習慣として行っている事（化粧や髪型も含め）に添った支援をしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けが一定の人に偏ることなく気分、体調に配慮しながら楽しくできるように行っている。	食材宅配業者による献立となっており、利用者一人ひとりの好みの食事を提供したり、利用者ができる範囲で食事作りに係わるまでには至っていない。 利用者は職員の支援のもとにそれぞれの能力に合わせて、食事の準備や後片付けをしている。 誕生日のケーキ作りや季節毎の行事食作りなどのほか、近隣のすし店やうどん店での外食を楽しんでいる。	地域密着型サービスにおける食事の果たす役割の重要性を再認識し、「献立作り→買い物→調理→テーブル準備→配膳→食事→後片付け」のプロセスに沿って利用者が出来る範囲で一品を献立に追加するなど、利用者ができる範囲で食事作りに係わるよう取り組むことが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、好き嫌いを把握し量、バランス食べやすさに配慮したり随時水分量を確認し確保できるよう行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの習慣付け本人にあった用具を用意し一人ひとりの状態に対応したケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を活かし、パターン、状態を知り、それに合った対応をしておむつからトイレで排泄、紙パンツから布パンツへと自立支援を行っている。	排泄チェック表に基づいてトイレ誘導をすることにより、おむつをしないケアに努めている。 多弁・多動になるなど一人ひとりの排泄サインを職員で共有し、排泄のタイミングを見逃さずにトイレ誘導している。 排泄の際にトイレという言葉を使用しない声かけのほかに、同性介助とするなどの配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便が出来るよう、食事、水分、運動と便秘の因果関係を理解し一人ひとりに合った対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日については変更可能ではあるが決めている。時間は午前・午後、夕食後など本人の希望する時間に入れるよう対応している。	週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望があれば、好きな時間帯にいつでも入浴ができるように支援している。 入浴の際にはカーテンを閉め、同性介助とするなど利用者の羞恥心に配慮している。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間をおいて再度言葉かけをするなどの工夫をしながら入浴ができるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベットや布団、枕や寝具など一人ひとりの習慣に合わせてゆっくりと休息、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々、一人ひとりの状態、様子、変化に気を配り、服薬支援、症状の変化の早期確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の家庭生活、社会活動から趣味、楽しみ、やりがいを見つけ役割、気分転換の支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩、買い物から、外食、行事外出等、本人の希望に添った様々な外出支援を行っている。	職員は利用者が週1回から2回事業所周辺を散歩し外気浴ができるよう支援しているほか、近隣のスーパーや100円ショップでの買い物に付き添っている。 ほぼ毎月車いす使用の利用者も含めて、花見や近隣の観光地などにドライブを兼ねて外出している。 職員配置の関係から、利用者一人ひとりの希望にそった外出支援をするまでには至っていない。	利用者一人ひとりの希望にそった外出支援に向けて、ボランティアなどの社会資源を活用する工夫が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時のお土産など、一人ひとりの力や目的に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話をする、手紙を書く、投函する等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節の花や風物、カレンダーを用意し、トイレ、浴室等は入居者がわかるような表示を心掛けている。居室も清潔を保ち、落ち着ける空間になるよう、工夫している。	ソファや炬燵を設置したテレビコーナーのほか談話コーナーを設け、利用者が思い思いの場所で落ち着いて過ごせるように工夫をしている。 和風の柔らかさを感じさせる照明や自然な植物配置など、ビル内という雰囲気を感じさせず、ゆったりとした家庭的な雰囲気づくりに努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にくつろげる場所を複数ヶ所作り、気の合った人と好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔を保ち、落ち着ける空間になるよう、家族の方の協力をいただき馴染みの物、家具の配置に工夫をしている。	利用者は使い慣れた整理筆筒やテレビ、目覚まし時計、テーブルなどのほか、化粧道具や食器などの身の回り品、家族写真を居室に持ち込んでおり、利用者それぞれの生活スタイルに合わせて居心地よく過ごせる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLを考慮し安全に生活、行動できるよう環境作りを行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 グループホーム さくらんぼ

作成日 平成24年7月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関やエレベーターなどにテンキーが設置してあり入居者が玄関から自分の意思で外出できるような環境を整えるまでには至っていない。	入居者が施錠による精神的な影響を受けずに生活できる。	見守りの体制を整える、建物全体及び地域住民の協力を得るなど日中のテンキーなどによる施錠を行わないようにしていく。	6ヶ月
2	35	夜間想定 of 訓練など様々な想定を考えた避難訓練の実施までには至っていない。	様々な状況を想定した訓練を実施していく。	夜間想定 of 避難訓練を実施する。また、様々な状況を想定した避難訓練を実施していく。	12ヶ月
3	2	入居者が地域の活動に参加したり、近隣の保育園児、小学生などと交流するなどして住み慣れた地域で生活していると感じられるまでに至っていない。	入居者が住み慣れた地域で生活していると感じられるようになる。	運営推進会議を通じて地域の情報を得て、参加できることには積極的に参加していく。	12ヶ月
4	10	入居者及び家族の意見を更に取り入れていくことが必要である。	入居者及び家族の意見・意向を取り入れよりよいグループホーム運営を目指す。	家族会開催などの意向を含めた家族へのアンケートを実施し運営に活かしていく。	6ヶ月
5	49	希望に添った外出支援に向けてボランティアなどの活用を取り入れる等の工夫を行うまでには至っていない。	入居者の希望に添った外出支援を行える。	ボランティアなどの社会資源の活用などを検討し入居者の希望に添った外出を支援していく。	6ヶ月
6	40	食事の提供体制もあるが、入居者が食事に関して十分に関わっているところまでには至っていない。	入居者が自身の食事に関して十分に関わっていける。	自分達で栽培した野菜などの調理や現食事体制で入居者が関わられることを増やしていく。また、おかずの1品は作るなど入居者が食事に関わる機会を増やしていく。	3ヶ月
7	33	現在の入居者及び入居時に「看取りに関する指針」をもとに当ホームの看取りケアに対する指針を明確にし家族等に説明し同意を得ている。	—	—	—

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。